飯田市

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館編集部
印刷所
信州印刷KK
松本市市上町353

賀正 元旦

子（ね）どし旺盛な繁殖力、これにあやかる鼠敏捷な動作と鋭敏な覚力人間の住む所には必ずいる位人間より高度の食生活を吟じている憎むべき動物である一方人間に代っていくつも医学上に貴重な資料を提供すべくすゝんで犠牲になってくれている愛すべき動物でもある。又鼠のいることは安たいのしるしともしている、家から急に見えなくなったり、どこからともなく沢山移て行くのは不吉の兆とみて気を病むのもいる。

それ程々感々に鋭いものの一つであるが猫、たか、ふくろうにはいつも不意をつかれている憶病者である。

まず道路の開発

清水助役にことしの施策を聞く

◇……昨年に続き市庁舎建設、町村合併、緑ケ丘中学完成、市民プー……◇

◇……ル建設等の重要な問題がのこされているが、今年この問題等を……◇

◇……どのように進めていくかについて清水助役に話しを聞いた。……◇

道路というものが産業経済の動脈であって、道路の開けた処に産業文化が発展するものであるということは多言を要しないが、そうした意味でこの飯田市を中心とした伊那谷に大道路網を開発して工場誘致を計り赤石等天然資源の開発を計ることが、飯田市の発展を期する構想として欠くべからざるものとなってくる。その具体線として市で今進められているものに中央道飯田下呂線、飯田～和田～浜松線赤石林道、飯田線の強化等、又、市中央道、水の手線の改修等がある。

◇…中央道への一段の熱意

第一の中央道については、東海道案と競り合いの形となっており中央道の問題点は工費や災害、霧等に問題があるが要は、東海道線と中央道の政治力の如何にかゝっており、今一段、地元の熱意が必要となってきている。

◇…眠れる赤石資源の開発

第三に赤石林道、飯田、和田線については地元上久堅、喬木村からの申入れもあって三千六百万石といわれる赤石資源を開発すべくこれらと呼応して進めている。赤石林道は今北沢岳に先をはゞまれておりこれをくり抜く費用が一億五千万程かゝり中央の力を借りる必要がある現在、森林開発公団より調査費五〇万円を受けて進めている。又和田線から浜松へぬける線も考えている。

◇…飯田線輸送の円滑強化

第四に飯田線については、辰野駅ホームが悪く輸送の円滑を欠きふんづまりの状態であるので、直接中央線に入るよう改修予定であるそれと名古屋から辰野へ出るのを準急で乗り込めるようにしたい各駅のホームが短く車輛がはみ出す現状にあるので、これも主要駅を改修して将来、長輛編成で輸送強化を計れるよう運動している。

又市内としては、新庁舎予定地を中心にそれに通ずる道路として中央道（一三粁）や水の手線の新設、改修を行っている。これによって山本から三十分、下久堅一五分で市役所へ来ることが出来るわけである。座光寺方面については上郷との関係があって一寸予想できない。

それには、前述の如くに伊那谷の交通を徹底的に整備して東京や中京の経済圏に入り工業の振興を計ることだ。これによって農家の二三男や余剰労力を工業に吸収して兼業化に進むだろう。あるいは別の方向として共同化して農業を企業化する時代に進むだろうしそうでなければ農業は浮かばれないだろう。悲観的な面ばかりではなく一町歩以上の経営面積の農家は更に経営を合理化してこの時代に対処して行かねばならぬだろう。

◇…上水道施設は

新上水道は松川より揚水して、伊賀良、松尾、竜丘地区に給水する計画である。給水用の配管は延長九万mに及ぶ予算は、三億円である。工事に入るには建設省厚生省の承認を受けなければ着手出来ない。工期は三ケ年間を費やして完成し、環境衛生面の改革を計かる。

◇…畜産の振興は

屠殺場は、色々な問題があったが、今年の一月中には完成する。当初の計画では、枝肉の冷蔵庫を建てるはずであったが、食肉組合の猛反対にあって、やむなく当初の計画を折ってしまったことはまことに残念なことである。又酪農振興の一環として学校給食に使用する牛乳を低温処理所を作り児童に大いに飲んでもらい、体位向上を計って行きたい。

◇…学校問題は

緑ケ丘中学校々舎は本年中には完成したい、旧校舎は廃止するが市民のものであるから公民館、図書館等有効に利用するのはよいだろう。

▼五年続きの豊作と云われた反面甚大な台風の被害を受けて災害救助法が適用されるなど、吉凶多くを事を難であった昭和三十四年度も除夜の鐘と共に去り、新しい年希望の年の出発を迎へた。先ず年頭に当り今年こそ市民の上に幸をき年であれと祈らずにはいられない。

▼田園都市をうたって合併した大飯田市もこれで四回目の新春を迎へた訳である。合併前には自治庁長官の云った『自治体組織の拡大は最早時代の要求である』と云う言葉も半信半疑でそのまま聞く事は出来なかったが、現在飯田市が教育に土木に産業経済に又行政事業にと着々進めつつある市政の力を見る時、この組織の大きくなった大飯田市を健全に発展させる事こそ個々市民の幸福をもたらす根本である事が解る。

▼しかし飯田市もやっと三才になったヨチ～歩きの準備期間中である、この基礎工事を完全にして如何に立派な大飯田市を築き上げるかは一つに市民の市政に対する関心と努力に依るものである。自治体が大きくなると市政にタッチする機会も少く遠くなり勝ちであるが、この遠大なる希望に向って大きく目を開くと共に、一層の努力と新しい決意を固めて昭和三十五年度の第一歩を踏み出さなければならない。（M）

縁の下の力もち

飯田市公民館長 矢高東

世の中が真によくなるために、何が大切なのか何がいけないのか、それをよく考える一人一人の市民をつくって行くこと、これが公民館活動の目標であると云う。僕も納得出来る。

一体公民館の仕事と云うものは、いくら一生懸命にやっても、橋をかけたり道路を舗装したりするような目に見える結果も出ないし、又あまりやらなくても、別に大した差もないような、つかまえ所のないことであるので、その仕事の重要性がどうも理解されない。従って予算なんかも何時も後まわしにされがちである実に情けない。然し実際は、公民館活動を本気でやって行く土地とやらない土地とを、五年十年向うへ行って比較して見る時には大変な差が出来ているに相違ない。而もその結果は政治にも経済にもあらゆる方面に大いなる効果をあらわして来るのである。

是ほど重要なことが他にあるだろうか。こんなことがどうして分らないのだろうか。

僕の思うに公民館の仕事にたずさわって居る人たちほど働くものはないと思う。特に事務に関係する人は土曜も日曜もあったものではない。夜は夜でおそくまで働くのだ。ゆっくり日曜を家族とともに楽しむことなど、半年に一度もあればいいくらいのものだ。

よく現実をみつめて

飯田市教育長 松沢太郎

一九六〇年という年は、いろいろな意味で新しい出発の年になるのではないかと期待されています。

政治的には、二大陣営の平和共存が更に一歩前進するだろうと期待される年です。資本主義社会と社会主義社会との共存の可能性は、マルクスやレーニンの時代に比べると、かなり現実の問題となりつつあります。この原因が、原子力とスプートニクの実現によるものであるか、又は、資本主義なり社会主義なりのもう本来の性格の故であるかは別として、兎に角、戦争はもう出来ないだということにだんだんなって来る現状であり、又是非そうなってもらいたいと願うのだが、これはよく考えて見ると、とてもたいへんなことで、こうなって来ると、世の中はどのように変って来るのかちょっと予想がつかないように思われるのです。

そこで、我々の身のまわりのことを考えて見ると、有のような世界のすう勢に比べて、なんだか旧態依然というか、いつまでたっても、こせこせとせまい天地の中で、お互につのつき合って生活していて、あまりぱっとしないように思われます国の政治も、なんだか派閥根性がさきにたって、ほんとうに国民のために政治をしていてくれるのかどうか判らないような実状だし、ちょっと景気がよければ、無駄なことばかりに金をつかって、ほんとうに人間が進歩して行くために必要な方面には、一歩一歩前進するのだと心にちかう次第です。

全く縁の下の力もちである。僕はよく云うんだ「もっとズルけてゆっくりやろう」と。

ところが公民館の仕事たるや、性質上そうは行かないのである。これは決して損得で出来る仕事でない。仕事のやり甲斐を知って、自分から好んで、身を挺してやるのでなければ出来ないことなのである。従って誰でもいいと云う仕事でなく、選ばれたるもののみによって出来る尊い仕事であると信ずる。

さて、われ～は新しい年を迎えると共に、心気一新、いよ～この重要な道を前進するんだ。あせらず、たゆまず、光栄ある目標に向って。

論説

なくそう無駄な予算

新しく迎えた一九六〇年、今年は市民プールと新市庁舎の建設をはじめ、市長選挙や合併問題等もあり、住民にとって市政に無関心ではおられない。

知らせる義務と知る権利とが正しく生かされなければ、民主政治は育たない。このことは、明るく住みよい地域社会にしていくためにも、大切なことである。もし、市議会で決定した結果だけを知らせて、それで事足れりとしているならば、それはあきらかに官僚政治といわなければならないが、現実には自治体が大きくなればなるほど、そうなりやすいのである。

合併により大飯田市になってから、市政に対する一般住民の関心は、一層遠くなってしまったように思うが、しかし全く無関心になっているわけではない。知る機会がすくなくて、そのだけがわからないというのが、実際のところではなかろうか。何がどうなっているのか、直接ふりかゝってこない限りは知らないし、知ろうともしないけれど、やはり身近な自治の政治であるだけに、たまには、議会報告をやってもらいたいという要望があるアンケートで多数あったというから、それなりの関心は持っているのである。

現在、自治政治の住民の生活にたいする影響なり役割は、非常に大きくなってきている。その仕事は多種多様であって、私たちの生活を左右する、重大なものが少なくないのである。新年度の予算編成が始まるわけだが、住民の負担を重くして仕事をやるのであるならば、それは政治の名に値しない。なるべく市民の税負担を軽くして、よい仕事をやってもらいたいものである。

住民に納得してもらえる政治は、その政策をたてるに当って住民の要望を知ることであり、その計画を知らせて協力してもらうことである。実際問題としてむずかしいことではあるが、そのための努力を当局と議会が進んで、誠意をもってやるかやらないかによっても、大分違うだろうと思う。特に合併の問題などは、関心がうすれているだけに、慎重に進めてもらはなければならない。独善的な官僚仕事で運ぶようなことがあれば、必ず将来問題が起るであろう。大飯田市になって、当初云われた〝田園都市〟の構想も、遅々として進んでいない現状から云っても、このことは云えるのである。これ以上住民の負担を多くすることは、何んのための合併だったのかということもなるのだから――。

それにしても、国の財政政策がもっと地方を優遇するように変らないかぎり、住みよい地域社会にしていくための、住民の希望を満たしていく仕事をしていくことは、一層困難であろうけれども、それだけにます忍い切って、まだずいぶんあるムダを省いて、民主的な重点予算編成を希望したい。

市を中心に大道路網

飯田下呂線は、従来の飯田～三留野、中津川～下呂線を、飯田～中津川～下呂線として去る十二月十七日より空中撮影等調査を進めているが、本年度中には完成の調査線から建設線に編入される予想である。飯田から名古屋バスで六時間、国鉄で五時間かゝるものがこれを直通利用すると、二時間半で結び中京三業誘致、産業振興に大いに役立つからぜひ実現したい。

◇…飯田～名古屋直通をはかる

市民のための庁舎に

支所は将来廃止へ

特別委員会を作り検討を重ねて来たが、十一月の議会で旧六久保小学校跡に決定したので今後は、全議員が建設委員となって研究をして行く、私の考えとしては庁舎を新らしくする事だけでは意味をなさないので、各課本位でなく、市民を中心とした、市民の便利と云うことを考えての構造としたい。そのために現在各課に別れているので種々と迷惑をかけていることが多いので『市民課』というものを設置し、そこに行けば税務、農事、建築等各課のことが足りるようにしたい。又今の中央公民館ではいろ～の会合に支障をきたしているので庁舎にそれに代るところも作りたい。

尚、構造規模は予算が一億六千万円で大部分を起債でおぎない、不足分は不用財産の処分でおぎなう予定である、大きさは一七〇〇坪位で地下一階地上三階建とし三十六年度に完成を目指している。

これに伴ない各地区の支所の建物は将来には廃止すべきものであるからその線に進むだろう。

農家の援護策をとる

現在おかれている日本の農業は重大な曲り角に来ている。飯田下伊那においても然りである。自分達の生活に縁遠いと思っていた世界の状勢によっても日本の農業はゆさぶられ、更に日本国内の最終段階に入ったと思われる資本主義社会において農業はこのペースについて行けずに落伍する運命にあろう。

市政はこれに眼をつぶることは出来ないので農協へも呼びかけて強力に農家の生活を向上させて行きたい。それには現在の状態を援護するだけでなく積極的に時代にマッチした施策を取りたい。

鼎合併へ踏切るか

龍峡四ケ村には市会に賛否両論

鼎町、上郷村の合併問題は新市発足以来の課題であった。最近の状態では鼎町にいたってはその動きは非常に明るく部落懇談会等ではすでに合併に踏切っている状態なので町議の意見統一のみで合併にもっていく気運となった。

上郷村の態度は非常に強行で当初と依然として変らずノーコメントといったところが現実だ。今後一層の研究とある程度の時期を要しよう。竜峡四ケ村（川路、竜江、千代、上久堅）の合併は市議会側では相当に強い賛否両論が対立しているので議会員全体が研究委員となって意見統一を計り慎重、討議の上で決定をみたい。

又個別で合併ということは全然考えていない。

今年の課題をおう 1960

◇……輝かしく明けわたった昭和三十五年の新春を迎え、選挙に伊勢湾台風、国道問題等を……◇
◇……はじめ多難だった昭和三十四年を顧みて誰もが今年こそ最良の年であるようにと決意……◇
◇……を新たにし力強い第一歩を踏みしめられたことだろう。……◇
◇……そこで編集部では年頭に当り〝新春放談〟として各諸氏と共に今年の問題や抱負につ……◇
◇……いて語り合ったが問題は大いに進展して市民の将来の生活設計にまで及ぼがらかな……◇
◇……放談会が行われた。……（司会は下平編集部長）……◇

新 統一した意見で期成同盟会を

司会　一九五九年を顧みて色々な問題が数多くあったように思われますがその中でも大きな問題は国道問題だと思いますが今年の課題としてMさんどうですか。

M　三四年度工事として現に駄科地籍に入っている国道も土地交渉が出来ないまゝに難行しているが早いとこ土地交渉を行って現地着工を継続させるよう努力しています。その後の法線については建設省にまかせるから一日もでも大きな法線を決定していただきたいと願っています。建設省としては期成同盟会を作って促進してくれる事を望んでいるのだから竜丘地区としても理想的な線へ意見が一致した期成同盟会が出来れば早く道があくようになると思う。

H　学習をやってそれから運動をやって行き度い。今年は熱を入れて此の問題に当っていきたいと思っています。

S　統一した意見にするよう努力しなければならない。運動の強いところへ道はあくのだから最も理想的な線を打ちだし運動をしなければならない。

O　期成同盟会を作って一本の線が出ればよいが出なければ白紙で建設省へまかせたほうがよいだろう。

K　自治協議会自体利害相反するので白紙でまかせる。時又街を通過する事については幾つかの点をあげて不可能であると云う結論に達しているようだ。時又は地形的にますいから消費人口を増やすよう考えているようです。すなわち住宅や工場誘致を行うとのことです。

春 工場誘致こそ救農か

農外収入を重点に

【写真は座談会】

司会　時又一つたがの天竜社のあとに工場や住宅を作る話しがあったが。

M　時又天竜社工場について自治会では市に、住宅なり、工場を作るよう話しをしているが市でも仲介さえ合えば有効に使うと思う。

T　今度個人から天竜社に移管されたのでそのような話も早いと思う。

M　天竜社では今ある乾燥場等も本社にもっていきたいらしい。

S　あそこが工場誘致について早くから話しがあったが実現しないのは。

M　今迄いろ〜と話しがあったが、土地交渉まで進んだことはなかった、住宅についても工場があるので何米はなれていなければと云う規則があるので実現出来なかったのだ。

O　天竜社も先に引きあげて待っていると云うことは出来ないだろう、市でそれ相当の値をだせばすぐに話しが出来るだろう。

司会　今後百姓のふところ具合を良くするにはどのようにしたら良いだろうか。

O　養蚕業は昔から景気ものであるので、養蚕に代るべきものを考える必要があるが、果樹園経営が現在花形であるが、竜丘は適地ではないと思うのでそれ相当の努力が必要ではないか。六反百姓では農外収入を考えるべきだ、聞話のようにこの地方でも工場誘致が必要だ、竜丘に五百戸農家があるが半分がどうにか食っていける人達ではなかろうか、米作も今が頂点だと思う、これらの農産物をまもっていくにはどうしても政治力が必要だが百姓にもその覚悟が必要だろう。国民の四〇％が百姓であるから政治にもその数を生かすようにするべきだそのために年に百円位の政治資金を出すべきだ、そうすればそれは何倍かになってもどってくると思う。自分から農業を守るために骨を折る事が必要だ、労組程いかなくても団結が何より必要だ。

S　まったくだ。

O　これからは量より質の時代だ米にしてもこれからは冷蔵装置付の倉庫が必要となって来た。

K　日本農業は保護政策で行っているから。

O　貿易を考えてみても見かえりは農産物だ、これは中共、ソ連でも同じことだ。

H　明るい見とおしがないので、どこかへ逃げだしたい位だ。

M　本気に考えるとそう云うことになるよ。

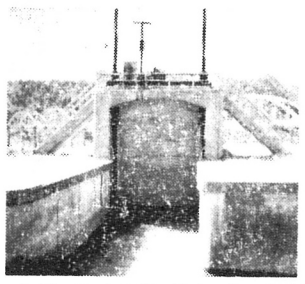
K　百姓が今の半分にならなければ、

M　農地が少しぐらいつぶれても小さな工場でもやれと云う人もいるよ。

O　二、三男対策と云うが、家のだれかが稼ぎに出なくてはならない状態だ。

O　老人、女が百姓で男は務めにでるべきだ。

T　今の若い人の多くはあきらめて百姓になった人達だ。百姓を教える先生が百姓はダメだと云う時代だ。



写真は頭首工で昭和三十年着工、三十一年完成されたもので、この頭首工は取水の安全を期すため、上伊那郡南向村渡場の南向発電所放水路から直結分水して、天竜川を伏越により右岸幹線水路に導入されている。最大流量は毎秒五・五六㎥である

放 一貫水路来年着工か

O　地区の代表であるべき自治協議会が利害相反するとして此の重大問題を放任しているようではまずいと思う。地区の意見を統制する役目だと思う。

より豊かな生活を

司会　理想と現実が相反し矛盾の多い混沌とした社会状勢の中で青年や婦人の皆様の本年の抱負は。

H　婚儀改善の問題や毎日の経済の中で今の社会や各々の家庭の中ではどうしても節約したやりくりをして行かなければならない。節約しなくてもやっていけるような社会になるようお互いに豊かな生活が出来るよう青年会の中で学習をやって行きたい。戦後強くなったのは靴下と婦人だと云われています。誠に光栄な言葉だと思っていますがその名言に恥じないよう全ての面に於て一生懸命やりたいと思っています。

S　主義（工場主）が楽になっていくだけであるので資本主義につくるのではないか、百姓はいつも目陰の生活で苦しいのである

出席者
公民館長下平潔、婦人会長代田きそ、青年会長原功、農協組合長岡村賢作、自治協議会長前島秀夫、龍丘支所長木下一、公民館主事河井辰雄、一般今村ふき、一貫水路関係小林武男、編集部員、順序不同
（敬称略）

O　農協でやる営農計画書をみても半分はやっていけない状態だ

S　それで農閑期には皆土方等の仕事に出るのだ。

T　幸か不幸か災害があるので稼ぎに出られる

O　この地区に大きな工場があればこの問題も解決すると思う。

M　川路村はコンニャクワサビと冬仕事があるので恵まれている。

S　川路の婦人会長もそのことで非常に喜んでいた。

O　たしかに地方としては賃金が高いようだ。

H　今の社会ではどうしても資本主義（工場主）が楽になっていても、もう少し勉強の必要があるのではないか、百姓はいつも目陰の生活で苦しいのである

K　はじめの計画であった全線国営と云うのが、変って、国営は鈴岡公園の下までで、それからあとは、県営と団体営となるわけです。団体営は地元負担率が高くなるし、（六〇％）（県営二五％）工事として先に申請したものも投術的にむずかしくなるので、県営分を長くする様に運動していたが、県営分が決った。県営は明年度認可がおりれば、明年は実施設計を行い、三十六年度から着工になるわけです。

司会　見通しとしてはいつごろ水がやって来るのですか。

K　県営工事として先に申請したものが、三つあるわけで、今年一つ採択になったから、あと二つの完ぱいがあるわけだが、竜西の県営は、国営の付帯工事だから、別格に扱って貰うように運動しているわけです。来年度採択になるだろうと云う希望的観測をしているわけです。来年度採択になれば、実施設計を行って、三十六〜七年には県営分が完成するわけです。

K　負担金については……

K　今迄は改良区の事務費を村の補助金で出して来たわけで問題がなかったけれど、来年度からは、自分達の事業をするのだから、自分達で負担金を出して行くのはあたり前だと云うことで35年度から反当四十一円宛負担金がかゝることになっている。県営分の総工事費は、九千万円で、その二割五分が地元負担となっています。

司会　これから問題となることは……

K　水が来ても、それを引いて来る水路や、それに伴う工事は、団体営で行うことになっているのだから、地区としてもその受け入れ態勢を考えて行かなくてはいけないのじゃないかな。

公民館にしたなら……

今後公民館で考えたい

司会　昨年の末より中学校舎の処分が問題になっていますが……

M　中学校の処分問題については竜丘地区の白田にはならないが保育園が市立であるのでその整備を市に要望した、また婦人会青年会から集会の場を作るよう要望する声があった。地区でも出来れば予算を作り払下げをうけてそのような場を作りたいと思う。

M　公民館でも何か希望があれば

S　青年会では会議室をと云う話しがあったが公民館ではしっかりしたものを作ってほしいと思います。

S　老人会館にしてほしいとゆう人もあるが。

K　何も老人会館でなく、竜丘には公民館がないから公民館とすべきと思う。

S　処分の方法については一部の人だけの意見でなしに多くの人達の意見をまとめていくことが大切だ。

司会　金飯田市の有線が統一されたら、自分達で負担金を出して行くのはあたり前だと云うことで35年度から反当四十一円宛負担金がかゝることになっている。県営分の総工事費は、九千万円で、その二割五分が地元負担となっています。

司会　これから問題となることは……

K　水が来ても、それを引いて来る水路や、それに伴う工事は、団体営で行うことになっているのだから、地区としてもその受け入れ態勢を考えて行かなくてはいけないのじゃないかな。

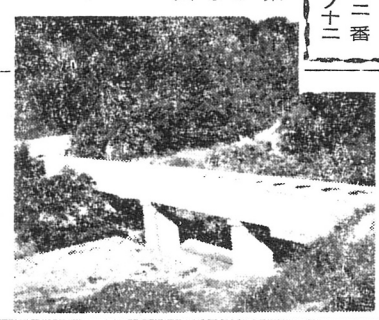
C　各種団体に利用していただきたい。昨年も毎週各種団体の時間を三〇分作ったがあまり利用されなかった。

I　公民館でも毎週一回自主番組を作って各種団体に割っておけばよいと思う。

O　飯田の統合の場合、番組編成にあたって各地区より自主的な時間の要求がなかったのであのような番組になったのではないか。

K　自主的な番組を今後公民館に於て考えて行くのが良いのではないかと思う。

謹賀新年
本年も相変らず御引立ての程を
新生堂商店
電話　十二番
有線　七ノ十二



写真は胡麻目沢水路橋で、高森町大字山吹1吉田間にあって、水路橋としては最も長いもので、延長六四、八米、総工費三一八万円で昭和三十四年度に完成された。

放 皆が共に前進を

公民館長　下平　潔

新年おめでとうございます。よりよい生活にする為にはどうしたらよいかということは、各人の最も切なる要求であろうと思います。それにはまず自らの生活を改善したいものです。各人の素朴な努力が重り合って成果をあげ得るのではないか、焦っても出来ないことです。経済生活の面に於ても、文化生活の面に於いても各人の努力と協力面とが相補って一歩でも半歩でも前進させたいと思います。公民館活動が幾分でも生活の向上改善に寄与することが出来れば幸と信じて年頭の御挨拶とかえます。

放 一貫水路来年着工か

放 今後公民館で考えたい

談 公民館にしたなら……

随想リレー 74回 爆竹の正月

吉川　隆

明けましておめでとうございます。新しい年と共に編集子一同おゝいに張切り、エネルギーの放出をこの新聞に傾け、今まで以上に皆さんに親まれる新聞を作りたいと思っています。新しい社会、明るい社会を夢見つつ編集したのがこの新年号です。明日の生活を考え新しい年の計画を実行にうつすために研究を重ね、月ごとに良い新聞をつくるつもりです。相変らずの御指導御批判をお願いします。

短歌

長野原短歌会

いにしへも母はわが子を背負いしか
埴輪（はにわ）をみれば哀しみの湧く　小林枝美子

次々と吾が耕らざる事ありし
年おわりしか除夜の鐘きく　塩沢　しま

温もりの残るほうれし河原に
孫とあかなく小石投げ交ふ　小林　こと

編集後記

今年の課題をおう 1960 の中では、昭和十九年十二月三十一日、六陸は静かに暮れんとしていた。揚子江の流れはゆるやかに真赤な太陽も黄色にかすみ始めた頃、突如、頭上で「バリバリ」と爆音の轟き、「ダッダッダッ」と間髪を入れず甲板から吠る機関砲の音、続いて「ピカッ」と一瞬光ったと思うと「グワン」目も眩む大音響がして石炭を満載した艦重標は上りかけた保上り、辺り一面は炭末と硝煙で真暗らになって仕舞った。三千五百七の冷凍丸の船舎の出来事で有る。

我先きにと飛び出すと、隼とロッキードの大空中戦が展開され、衆寡敵せず煙を吐いて次々と落ちて来るのは日の丸機ばかりである。吾が隊の戦死者第一号と成ったA君は先刻の爆弾で真二つに裂けて長江に浮いていた。

大晦日は御通夜と変り、揚子江を前線へ進撃中の隊は不吉な春を迎えた。

戦病者、自殺、行方不明と続出し食糧と弾薬の欠乏で青年部隊も日毎に志を失い乍ら荒野を黙々と歩くのみであった。

更にひどいのは中国の人達だ。時には全滅し或は人一人おらぬ無気味な部落も多かった。打ち続く戦争と皇根は憤き壁は落ち、やせた無表情の顔にも憎悪が満ちていた今は戦友達も、誰彼となく希望を失って、只、惨憺な軍規に其の日を動くのみであった。

やや暦より一月遅すぎた頃「ドドンパチ〜」の音にせめての夢を破られて跳ねおきた。「はてな銃声とも違うが」まだ暗んに音がして居る。「ばあ、あれが爆竹と云う物か」疑問として出て見ると、格別で澄み切った六空は独特の神秘に包まれて、三年来の朝が明けんとしているのだ。見るとの家も門の扉は開かれて正面の間には燈が赤々と燃え、入口には、赤黄の色紙に何やら目出度い字が墨痕鮮に書いている。「判った、旧暦のお正月だ、中国の元旦なんだ」黄道吉日とは此の事から来たのだろう。三々五々に行きあう人々の足取りは軽く、敵愾心の面影は消えて明るい。早目に話しあっているのは新年の挨拶の様だ。御参りにゆくのかどの蔵みも希望に輝いていたあゝ、あの人達も平和を求めてやまないのだ。此の神々しい新春の景に打たれて忘れられていた私の望みは蘇み帰って来た。そうだ生きて帰れたら今朝の一時を一生忘れまい。何は悪くとも正月を充分に味わおうと心に刻んだ以来一年の計は元旦にと云うのが私のモットーとなった。

あれから十四年、平和の春を楽しめて満足であったが、安全保障条約改悪と又無気味な息吹きが感ぜられる此の頃、中国の新年がまぎ〜と浮んでならないが。

今の青年の方々は何と思われるであろうか。

（次のベトンを駄科の下平翠さんにお願いします）